

いろいろなサンゴ(四放サンゴ、六放サンゴ、八放サンゴ)

企画展 4月15日(火)～5月27日(火)

2 **フィレンツェ ピッティ宮近代美術館コレクション トスカーナと近代絵画**

企画展 6月7日(土)～7月6日(日)

2 **大麒麟獅子展**

企画展 7月19日(土)～8月31日(日)

3 **胸キュン☆サンゴ展 ～私を深海につれてって～**

3 シリーズ「学校と博物館をつなぐ」② 博物館を学校の授業でご活用下さい

4 [自然] コラム 「境界」をみつめる -自然展示室のもうひとつの楽しみ方-

5 [人文] コラム イワシの地引き網漁

資料紹介 布施天神山城図(複製)

6 [美術] コラム -近世絵画事始- 流派

新収蔵品紹介 モーリス・ド・グラマンク《赤い屋根》

7 [山陰海岸学習館だより] ついに明かされた龍神洞の実態-3D映像第二弾「神秘と生命の物語」-

8 講座・観察会・毎週土曜はアートの日!

企画展 4月15日(火)～5月27日(火) 休館日なし

フィレンツェ ピッティ宮近代美術館コレクション トスカーナと近代絵画

花の女神フローラをその名前の由来とするトスカーナ州の州都フィレンツェは、かつて、ルネサンス文化の中心地として栄え、その美しい街並と巨匠たちによる傑作の数々により、今なお人々をひきつけてやまないイタリアの都市のひとつです。ピッティ宮は、ルネサンス期の15世紀後半にこの地の豪商・ピッティ家が建造し、16世紀から20世紀にはメディチ家をはじめとするトスカーナ大公家やイタリア王家など歴代の統治者が拡張、改装を重ねながら居館と



アントニオ・フォンタネージ《サンタ・トリニタ橋付近のアルノ川》
1840年代～67年 キャンバスに油彩
©Galleria d' arte moderna di Palazzo Pitti

して使用してきた巨大な建築物で、現在は7つの独立した美術館として運営されています。今回の展覧会では、そのうちのひとつである近代美術館のコレクションにより、18世紀後半から20世紀にかけてのトスカーナを中心としたイタリア近代絵画の流れを年代に沿って紹介します。

中でも注目すべきは、「イタリアの印象派」とも呼ばれる「マッキアイオーリ」の充実した作品群です。イタリア語で「しみ」「斑点」を意味する「マッキア(macchia)」に由来するこの芸術運動は、フランスの印象派同様、新しい絵画に対する伝統的な批評家からの蔑称として使われはじめ、後に定着したもので、光と色彩を描き、日常の現実を素早くとらえるために、1850年代半ば頃フィレンツェの若い芸術家グループによって提唱されました。当時イタリア統一直前の時代精神を背景に、絵画という表現分野においても革新的なものが求め



テレマコ・シニョーリ《少年の頭部》制作年不詳
©Galleria d' arte moderna di Palazzo Pitti 厚紙に油彩

られていました。とりわけ風景画や人物像から、リアリティへの希求と彼らの瑞々しい感性を伺うことができるでしょう。

あわせてマッキアイオーリと前後する時代、18世紀のロマン主義による物語画や肖像画、当時のフィレンツェの景観を描いた絵画に加え、デ・キリコやカッラなど20世紀を代表する作家たちによる秀作も紹介し、イタリア近代美術史をより深く理解できる構成となっています。

またとないこの機会を是非お見逃しなく。

(美術振興課 赤井 あずみ)

企画展 6月7日(土)～7月6日(日) ※6月23日(月)は展示替えのため休館します。

麒麟獅子展

写真の獅子頭をご覧ください。鳥取県東部にお住まいの方にはおなじみだと思いますが、金色の長い顔に、大きな口と鼻、両目は開いているのかわからない、どこことなくユーモラスな表情をしています。そしてピンと立った両耳の間には一本の角が生えています。想像上の霊獣「麒麟」に似ているところから「麒麟獅子」といいます。

かつて因幡と呼ばれた鳥取県東部地方一円には、眉間に突き出た角一

本を持つ獅子頭を蚊帳と呼ばれる胴衣に入った二人が操り、猩々を加えて、太鼓・鉦・笛などの囃子に合わせて舞われる麒麟獅子舞が伝播しています。

この麒麟獅子舞は、江戸時代の初めに鳥取池田家の初代藩主・光仲が創始したとされ、地方的特色の著しい民俗芸能です。

この展覧会では、鳥取県の重要な民俗文化財(民俗芸能)であり、国の記録作成を講ずべき無形の民俗文化財に選択されている、麒麟獅子舞を可能な限り網羅紹介したいと思います。

お隣の但馬(兵庫県北西部)、北海

道と、鳥取県外に伝わる麒麟獅子の資料もあわせて紹介する予定です。

(学芸課 福代 宏)



鳥取権現祭行列之図(当館蔵)



木造麒麟獅子頭(当館蔵)

胸キュン☆サンゴ展 ～私を深海につれてって～

サンゴと聞くとみなさんは何を思い浮かべますか？強い日差し、透明な海、白い砂浜、ビーチパラソル。ふつう、サンゴから連想するのはこんな言葉でしょうか。青い珊瑚礁ですね。しかし、私は違います。暗黒世界、凍てつく海、泥の海底、潜水艇。そう、深海です。そんな深海の泥の海底には、扇子、おせんべい、レース細工、アポロ宇宙船など様々なかたちの小さくかわいいサンゴがいます。そんなサンゴの私たちは自然によってねりあげられた用の美です、決して無駄はありません。このサンゴをサンゴたらしめている“かたち”は骨のかたちです。その骨が積み重なり、我々に楽しいバカンスを約束するサンゴ礁ができています。骨抜きになったサンゴは、もうサンゴと

は呼べません。クラゲやイソギンチャクのなかま（刺胞動物）で骨をつくるグループをサンゴと呼んでいるからです。

今回の企画展ではサンゴ礁にはじまり、太古の地球にタイムスリップしながら、最後は深海までみなさんをご案内します。サンゴ礁と深海という、全く違う環境で、サンゴがどのように生きてきたのか、サンゴ礁や深海の生物や化石標本などともにご紹介します。5億年もの長き歴史を生き抜いたサンゴから、未来の地球も見えてきます。

鳥取はサンゴの町です。今書くと嘘っぽいですが、本当に昭和初期までは、鳥取のお土産といえばサンゴ細工でした。高知の赤い宝石サンゴと違い、鳥取のサンゴは黒、白、虹色のサ

ンゴでした。これらは日本海の深海に生きていたサンゴたちです。私はこの企画展で鳥取をもう一度サンゴの町に変えたいと、高まる胸の鼓動で、胸がキュンキュンしています。みなさんもこの夏、サンゴで胸キュンしてみませんか？
(学芸課 徳田 悠希)



鳥取沖の深海にすむタマサンゴ(当館蔵)

シリーズ「学校と博物館をつなぐ」②

博物館を学校の授業でご活用下さい

「県立博物館」と聞くと先生方はどんなイメージをお持ちでしょうか。「たくさんの資料が展示してある」「個人ではあまり行ったことはないけれども企画展は見たことがある。」「仁風閣の近くにあつて、遠足や校外学習で



復元民家での館内授業「昔の人のくらし」

利用したことがある。」といった声が聞こえてきそうです。なんだか堅苦しいイメージがある博物館ですが、一般に博物館というと、様々な資料を収集・保管・研究・展示することが仕事なのです。鳥取県立博物館の場合、鳥取の自然・歴史・美術のお宝資料を「集めて」「調べて」「紹介」するところだと考えていただくと分かりやすいのではないのでしょうか。専門の学芸員もいますので、聞きたい事が何でも質問できる。そんな施設でもあります。

もし、学校の授業や児童・生徒からの質問でお困りのことがありましたら、遠慮なく博物館にご連絡ください。専門の学芸員が丁寧にお答えしますし、学校に出向いて出前授業やチームティーチングをすることも可能です。授業に必要な資料を貸出しすることもできます。電話一本で先生方の様々なお手伝いをさせていただきます。

また、昨年度先生向けに実施して好評だった「実物岩石図鑑の作成」(川原編・海岸編)・「天体望遠鏡の活用」・「昔の

お金づくり」など本年度も実施する予定です。

さらに、先生方に博物館をより知っていただくための新たな取り組みとして「教員のための博物館の日2014 in 鳥取県立博物館」を夏休み中に開催する予定です。これは、博物館が持っている授業に役立つ学習素材(or教育素材)を活用しながら、児童・生徒の興味を引き出す授業の展開を提案するもので、先生方が楽しく授業ができるようにたくさんの教育コンテンツを紹介するものです。理科・社会・美術の先生に限らず、国語や体育その他の教科の多くの先生方のお越しをお待ちしております。授業に役立つネタ・使えるヒント満載でお迎えます。詳細は追ってHP・通知などでお知らせします。



学校の先生向け講座「実物岩石図鑑作成(川原編)」



学校の先生向け講座「天体望遠鏡活用」

学校の先生が楽しめてためになる！鳥取県立博物館の教育素材が先生方の授業をサポートします。

(学芸課 田中 博昭)

「境界」をみつめる —自然展示室のもうひとつの楽しみ方—

境界をみつめると・・・

桜前線が北上しています。春らしくなってきましたが、改めて考えると、春はいつ始まり、いつ終わるのでしょうか？ 私たちは1年を春／夏／秋／冬と分けていますが、実は明確な境界はありません。その他にも虹を7色に分けていますが、実際の色は徐々に変わっており、境界線はありません。このように、実際には明確な境界がないものに境界線を引き、グループ分けすることは人の特性のようです。このことで私たちは混沌とした世界を整理し、認知してきたのです。

博物館の自然展示室をみてみましょう。恐竜が展示してある「中生代」の次は「新生代」となり哺乳類の展示に変わります。中生代と新生代の境界は約6500万年前、恐竜などの大絶滅があった時です。しかし、ある時を境にいきなり中生代が終わったわけではありません。以前よりは急激ですが、気候などは徐々に変化し、長い年月をかけて生物の種類が置きかわっていったはずです。中国地方の最



写真1. 「大山の生物」コーナー



写真2. 「鳥取県における動物の地理的変異」コーナー

高峰である『大山の生物』コーナー [写真1]では、照葉樹林帯／ブナ林帯／低木林帯／草原・お花畑と境界線が引かれていますが、実際はどのようなのでしょうか。

確かに、境界線を引き、分けて考えることは、私たちの理解を助けてくれます。その結果、多くの知見を得てきました。しかし、あえてこの「境界」をみつめてみてはいかがでしょうか。新たに疑問がわき、その疑問を考えることで、大げさですが、新しい価値観や世界観が生まれるかもしれません。たとえば、人の皮膚の色です。境界を引けば、白人／黒人となるかもしれませんが、世界中をみつめれば、虹と同じく、境界なくつながっています。気短／気長などの個性も同じです。

境界から学ぶ

自然展示室に『鳥取県における動物の地理的変異—本州のガラパゴス：鳥取県』というコーナーがあります [写真2]。ここでは、鳥取県内にはフキバッタ、ザトウムシ、イモリ、カジカガエル、ニホンザルなど様々な動物の分布境界があることを紹介しています。たとえば、イモリには模様や繁殖行動の違う6つの地方型が知られていますが、その中の篠山型と広島型の境界は鳥取県と岡山県にあります [写真3]。鳥取県に動物の分布境界が多くみられる要因には、最終氷期の動物の移動なども関係しているようですが、境界を調べることで、動物の多様性を生み出すしくみや種が分かるしくみがわかってくるのです。

今や鳥類が恐竜から分化したことは定説ですが、こういう発見にも「境界」が一役買って

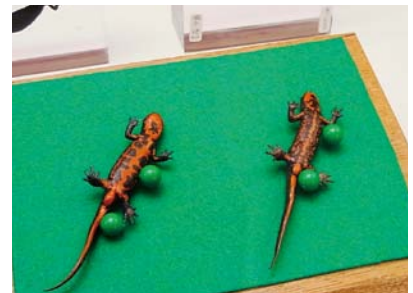


写真3. イモリの篠山型(右)と広島型(左) [レプリカ]：篠山型と広島型は鳥取県内で移り変わる。

います。恐竜類の特徴を持ちながら、翼や羽毛などの鳥類の特徴も合わせ持つ始祖鳥 [写真4]は有名ですが、恐竜と鳥の境界だったともいえます。恐竜から鳥への進化の話は他の本に譲りますが、始祖鳥が鳥と恐竜のミッシング・リング(失われた環)として果たした役割は大きく、とても面白いです。なお、近年の研究では、始祖鳥は現生の鳥類の直接の祖先、つまり鳥の始祖ではないと考えられています。



写真4. 始祖鳥(ベルリン標本) [複製]：1877年発見。ベルリンにある博物館に収蔵されているのでこの名がある。

境界が引けるということは、そこには急激な変化があるということです。何かが大きく動いています。自然史に限らず、人間の歴史でも同様で、江戸時代と明治時代の境界などもまさに激動の時です。だからこそ面白く、みつめてみる価値があり、学ぶべきことが存在しているのではないのでしょうか。

(学芸課 川上 靖)

イワシの地引き網漁

江戸時代、鳥取藩内の花形の沖漁はシイラ漁でした。シイラ漁は藩の許可漁業であったため、漁ができたのは限られた村々だけ、沖漁が許されない大半の村々でもっとも盛んであったのが地引き網、最大の漁獲物はイワシであったそうです。

鳥取藩士岡島正義が江戸後期に記した『霜眉随記』は、当時のイワシ漁について記した貴重な文献です。以下同書をもとにイワシ漁について紹介します。

『霜眉随記』は、イワシを因伯の「大



イワシの剥製 (当館蔵)

産物」としています。イワシが大漁のとき、農家は自作の筵や簀を浜へ持ち出してイワシと交換し、持ち帰ったイワシは田んぼの肥料としたそうです。施肥した田は、稲がよく実ったといえます。

同書によると、イワシの大漁が見込めるのは旧暦10月頃(今の11月頃)で、旧暦5、6月(今の6、7月頃)はゴマメ(極小のイワシ)が多く獲れたといえます。しかし、イワシが多く寄ったあとは天気が崩れ、因幡地方ではイワシが大漁となると、皆、雨が降るものだと心得ていたそうです。

沖で遊泳するイワシの大群が磯の方へやってくるためには、「立物」と呼ばれる、イワシを捕食しようとする魚の存在が必要でした。イワシはその魚

から逃げようと、磯へ近づくからです。最良の立物はブリで、ブリに襲われたイワシは一群となってゆっくりと磯へ近づいたため、一網打尽にしやすかったといえます。逆にハマチは磯へ近づくイワシを沖に追いやってしまうため、漁師から嫌われたそうです。一般にハマチとは「ブリ」の成長過程の名称です。なぜ、同じ「ブリ」なのに、イワシの動きに違いが出るのか興味深いのですが、詳細は不明です。

今ではすっかり高級魚となったイワシ。いつか江戸時代のように大量のイワシが獲れるほど漁獲高が回復し、脂の乗ったおいしいイワシを足るほど食べられる日が来るのを切望します。

(学芸課 大嶋 陽一)

資料紹介

布施天神山城図(複製)

湖山池の東岸に位置する布施天神山城(現、鳥取市湖山町南三丁目・布勢・桂見)は、15世紀後半から、永禄6年(1563)までの約100年間、因幡守護山名氏の本拠地でした。

山名氏が因幡国の守護となったのは、南北朝動乱の際、足利尊氏に従った山名時氏からです。14世紀末に、山名氏は一族で11ヵ国の守護に任じられ、当時、日本全国が66ヵ国であったことから、「六分の一殿」と呼ばれました。しかし、明德3年(1392)年に将軍足利義満との戦いに敗れ、領国は但馬、因幡、伯耆の三ヵ国に減らされます。その後、一族の長である但馬の山名宗全が幕府内で勢力を伸ばし、応仁・文明の乱(1467~77)では西軍の主将となりましたが、乱後、領国で内乱が起こり勢力を弱めました。

布施天神山城が築城されたのは、

こうした戦乱の時代でした。17世紀末に編纂された『因幡民談記』は、応仁・文明の乱の頃に山名勝豊が築城したと伝えています。

この絵図の原図は『因幡民談記』所載で、戦国時代の同城とその周辺の様子を描いたものです。「町屋」、「侍屋敷」、「傾城町(遊郭)」などの語句から、城の周りに大勢の人々が暮らしていたこと、湖山池に続く水路に記入された「舟入」から水運が盛んであったことが示されています。

近年、戦国時代末まで湖山池の北部が日本海とつながり、中世の布施は日本海海運につながる商業都市であったと考えられるようになりました。絵図は江戸時代初

期の因幡国内の伝承に基づいて作成されたもので、実際に「町屋」や「侍屋敷」が描かれたとおりであったのかはわかりませんが、戦国時代の布施の発展がうかがわれます。

(学芸課 石田 敏紀)



布施天神山城図(複製) <部分>

— 近世絵画事始 — 流派

現代に生きる私たちは、実に多様な美術作品を目にする機会に恵まれています。平安時代の崇高な信仰心が可能にした精緻極まる仏画から、草間彌生・村上隆らの現代美術まで、また遙か古代に花開いたエジプト美術や美しく均整のとれたギリシャ彫刻が鑑賞される一方、モネやルノワールといったヨーロッパの印象派の作品、あるいは南アフリカ出身のマレーネ・デュマスやブラジル出身のエルネスト・ネトの作品が日本の美術館で展示されるなど、時代・国を超えたありとあらゆる美術を鑑賞しうる状況にあります。

しかし時代を遡るとその環境は全く異なり、たとえば平安時代に絵画を享受できるのは天皇を中心とする宮廷や有力な寺社などごく限られた階級の人々のみでした。室町時代に入っても、高位の武家など特権階級がその中心となっていたことに変わりなく、その裾野がようやく広がりを見せ

始めるのは戦国時代に入り、富裕な町人が台頭し始めたところからです。ここで享受者の好みに応じ、これまでとは異なるスタイルの絵が求められるようになってきました。さらに江戸時代に入ると、安定した社会と著しい経済成長の中で需要層は劇的に拡大し、以前とは比べものにならないほど多様な流派が誕生します。それまで日本絵画の王道であった“やまと絵”や“狩野派”以外にも、新しく“浮世絵”、“文人画”などのジャンルが生まれ、尾形光琳に代表される“琳派”や写実に重きを置いた“写生派”、画家の奇抜な個性を發揮させた“奇想派”など、さまざまな画風が展開しました。さらに江戸時代後期には、複数の流派を画題に合わせて器用に描き分けた鳥取藩御用絵師の沖一峨のような人物も現れます。

4月26日(土)からは、当館のコレクションの中から、こうした近世絵画の流派を紹介する展示《—近世絵画



沖一峨《四季草花園》江戸時代後期 絹本着色(当館蔵)

事始—流派》を開催します。日本美術の世界でなにげなく使われることも多い“狩野派”や“文人画”といった各画派の作風をそれぞれの作品を通じて紹介すると同時に、さまざまな流派が織りなす近世絵画の多様な魅力に触れていただく機会ともなれば幸いです。(美術振興課 山下 真由美)

新 収 蔵 品 紹 介

モーリス・ド・ヴラマンク《赤い屋根》

当館は昨年度、フランスの画家モーリス・ド・ヴラマンク(1876-1958)の油彩画《赤い屋根》を購入しました。本作は、当館が所蔵する2点目の海外作家の油彩画作品となります。ヴラマンクは、鮮やかな色彩と力強い筆遣いを特徴とするフォーヴィスム(野獣派)の画家として知られています。パリの音楽家の家に生まれたヴラマンクは、はじめは自転車競技やボート競技の選手として活動していましたが、画家アンドレ・ドランの出会いをきっかけに画家へと転身します。ヴラマンクは自由奔放な色彩を用いて制作を続け、ファン・ゴッホの強い影響のもとにフォーヴィスム運動に参加しました。次いで1908年頃よりセザンヌの影響を受けて構成的画面に転じ、スピード感のある素早いタッチでダイナミックな風景を描きました。

1910年頃に描かれた本作では、フランスでよく見られる二階建ての赤い屋根の一軒家が、明るみを抑えた赤・緑・青などの色彩で穏やかに表現されています。セザンヌ風の構図を用い、色面によって対象をとらえた本作は、緊張感の中にもゆとりがあり、空間に広がりが見られる優れた作品です。

ところで、鳥取県出身の画家・前田寛治は、パリ留学中の1923年にヴラマンクを訪ねています。前田は後にヴラマンクとの出会いについて、「ヴラマンクに会ったそのことが僕にとっては何かしら画家としての生活を吹き込まれたような気がした」(前田寛治「ヴラマンク訪問記」『中央美術』9巻8



モーリス・ド・ヴラマンク 《赤い屋根》 1912-14年頃 油彩・カンヴァス ©ADAGP,Paris&JASPAR,Tokyo,2014 D0505

号、1923年)と述べています。本作は今後、館蔵品の前田寛治をはじめ、クールベや佐伯祐三、里見勝蔵等の作品と併せて展示する予定です。

(美術振興課 林野 雅人)

ついに明かされた龍神洞の実態 —3D映像第二弾「神秘と生命の物語」—

鳥取県浦富海岸の羽尾岬の先端には、山陰海岸ジオパークの中でも最大級の洞窟「龍神洞」があります。龍神洞は、海に向かって開口した「海の龍神洞」と陸上に開口部をもつ「丘の龍神洞」に分けられます。2つの洞窟はともに北西方向に開口していることから、日本海の冬の特徴である、北西からの強い季節風によって生じる荒波が創り出した自然の造形として知られています。しかし、その正確な大きさや内部構造などの実態は明らかにされておらず、多くの謎に包まれた神秘的洞窟でした。

山陰海岸ジオパークの魅力を伝える3D映像第二弾の制作にあたり、知られざる龍神洞の実態解明を目的に、今回初めて洞窟内部での三次元レーザースキャナー測量と海中を含む映像撮影が実施されました。三次元レーザースキャナー測量によって龍神洞内部の空間を詳細に把握することができ、「海の龍神洞」と「丘の龍神洞」が岩の割れ目を通してつながっていることや、北西方向に伸びた両方の洞窟の直線距離がともに約127メートルでほぼ同じ長さであることも明らかとなりました。「丘の龍神洞」の入口付近には岩の割れ目を通して海水が入り込み、今も波打ち際の岩石を動かしています。それに対して、「海の龍神洞」は開口部から約70メートル付近に多数の大きな岩石の崩落があり、その奥部は波の流入も少なく、暗闇に包まれた静かな空間が広がっていました。洞窟の成因等の地学的な調査はこれからですが、今回初めて映像が撮影された「海の龍神洞」奥部や測量による実態調査の様子を近日公開予定の3D映像第二弾の中で紹介します。

3D映像第二弾「神秘と生命の物語」では、龍神洞の他



「海の龍神洞」と「丘の龍神洞」の内部構造(提供:株式会社 ウェスコ)

にも、海底で発見された巨大なポットホールを含めた複雑な海底地形を紹介するとともに、海の中でたくましく生きる生命の物語にも焦点をあてています。本映像は2014年3月4日から山陰海岸学習館の体験学習室(3Dシアター)にて上映を開始する予定です(観覧無料)。臨場感あふれる3D映像を通して、地域の自然や生きものの魅力を改めて実感していただきたいと思っています。

(山陰海岸学習館 和田 年史)

■ 普及活動一覧(平成26年度上半期)

《野外観察会》

山陰海岸ジオハイキング～浦富海岸東コース～
5月18日(日)午前9時～正午
場所/山陰海岸学習館～羽尾岬～東浜
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:20名(先着順)
申込開始:5月4日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

山陰海岸ジオハイキング～白兔・小沢見コース～
6月8日(日)午前9時～正午
場所/白兔海岸～小沢見海岸(鳥取市)
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:20名(先着順)
申込開始:5月25日(日)～、電話のみ

《野外観察会》 海藻観察に出かけよう!

6月15日(日)午前10時～正午
場所/城原海岸(岩美町) 集合:岩美町立渚交流館
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:20名(先着順)
申込開始:6月1日(日)～、電話のみ

《野外観察会》夜の渚でスナガニの観察

7月5日(土)午後7時～午後9時
場所/岩美町立渚交流館および熊井浜(岩美町)
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:30名(先着順)
申込開始:6月21日(土)～、電話のみ 参加費:200円

《野外観察会》磯の観察会

7月19日(土)、26日(土)、27日(日)午前9時～午後3時
場所/岩美町立渚交流館および熊井浜(岩美町)
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:各回30名(抽選)
申込開始:6月15日(日)～6月29日(日)、往復はがき

《野外観察会》海岸の石を調べてみよう!

8月10日(日)午前10時～午後2時
場所/岩美町立渚交流館および大谷海岸(岩美町)
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:20名(先着順)
申込開始:7月27日(日)、電話のみ

《自然講座》鳥の羽で図鑑を作ろう!

9月21日(日)午前10時～正午
場所/岩美町立渚交流館
対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴) 定員:20名(先着順)
申込開始:9月7日(日)～、電話のみ

※申込、問合せは山陰海岸学習館(電話:0857-73-1445)へ

鳥取県立博物館付属

山陰海岸学習館 San'in Kaigan Nature Museum



■入館料:無料

■開館時間:9時～17時

■休館日:毎週月曜日

(祝日の場合は翌平日が休館日)

国民の祝日の翌日(土、日、祝日は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

【お問い合わせ】〒681-0001

鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話:0857-73-1445

FAX:0857-73-1446

<http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/>



INFORMATION お知らせ

講座・観覧会・毎週土曜はアートの日! LECTURE・FIELD STUDY・EVENT

■自然部門 ■歴史・民俗部門 ■美術部門(毎週土曜はアートの日)

2014 4 APR.	企画展関連《ギャラリートーク》 菅橋彦展	■4月5日(土) 14:00~15:00 / 企画展会場 ■高校生〜一般 / 定員なし / 要観覧料
	《ギャラリートーク》 コレクション展I	■4月12日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生〜一般 / 定員なし / 要観覧料
	企画展関連《ギャラリートーク》 トスカーナと近代絵画	■4月19日(土) 14:00~15:00 / 企画展会場 ■高校生〜一般 / 定員なし / 要観覧料
	企画展関連《特別講演会》 ピッティ宮近代美術館とトスカーナの近代絵画	■4月26日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生〜一般 / 250名 / 無料 ■講師: 金原由紀子(尚美学園大学准教授)
	《講演会》 鳥取藩の江戸幕府献上品	■4月27日(日) / 14:00 ~ 15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 申込不要
2014 5 MAY.	企画展関連《ワークショップ》 落書きばんざい!(春編)~こいのぼりに入っちゃお!	■5月3日(土) 10:00~15:00 / 博物館前庭 ■幼児・小学生(小3以下は保護者同伴) / 定員なし / 無料
	《天体観望会》 春の星を見る会	■5月3日(土) 18:30~20:30 / 前庭 ■小学生〜一般 / 定員なし / 無料
	企画展関連《スペシャルアートシアター》 ベルトルッチ監督作品「1900年」(BD)	■5月10日(土) 13:10~18:50 / 講堂 ■大学生〜一般 / 250名 / 無料
	企画展関連《ギャラリートーク》 トスカーナと近代絵画	■5月17日(土) 14:00~15:00 / 企画展会場 ■高校生〜一般 / 定員なし / 要観覧料
	《シンポジウム》 狒犬データベースの活用と今後の狒犬研究	■5月18日(日) / 13:30~16:00 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 申込不要
	企画展関連《ワークショップ》 カフェ・メケランジェロの夕べ	■5月24日(土) / 15:00~21:00 / 鳥取市内 ■大学生〜一般 / 定員なし
	《歴史講座》 「鳥取こちずぶらり」でまちあるきin鳥取	■5月25日(日) 13:00~16:00 / 鳥取市内 ■一 般 / 10名 / 無料 ※申込受付: 4月25日(金)〜、電話のみ先着順
	《ギャラリートーク》 「一近世絵画事始一 流派」	■5月31日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生〜一般 / 定員なし / 要観覧料
	《ギャラリートーク》 「長通寺所蔵 八百谷冷泉作品展」	■6月7日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生〜一般 / 定員なし / 要観覧料
	《ギャラリートーク》 大麒麟獅子展	■6月8日(日)、15日(日) 14:00~15:30 / 企画展会場 ■一 般 / 定員なし / 無料
2014 6 JUN.	《スペシャルアートシアター》 「死なない子供、荒川修作」(DVD)	■6月14日(土) 14:00~15:20 / 講堂 ■高校生〜一般 / 250名 / 無料
	《自然講座》 顕微鏡で楽しむミクロの世界	■6月15日(日) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生〜一般 / 20名 / 無料 ※申込受付: 6月8日(金)〜、電話のみ
	《ワークショップ》 「カメラを持ってまちあるき in三朝(予定)」	■6月21日(土) 13:00~16:00 / 三朝温泉周辺 ■小学生〜一般 / 20名 / 無料 ※申込受付: 6月6日(金)〜、電話のみ
	《講演会》 北海道に渡った因幡の麒麟獅子	■6月22日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 無料 ■講師: 伊藤康晴、西谷栄治
	《ワークショップ》 「竹でつくりよう一輪挿し」	■6月28日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■高校生〜一般 / 12名 / 1200円 ※申込受付: 6月13日(金)〜、電話のみ
	《見学会》 麒麟獅子舞を見に行こう!	■6月29日(日) 9:00~11:00 / 鳥取市服部 ■一 般 / 10名 / 不要 ※申込受付: 5月29日(木)〜、電話のみ
	《特別講演会》 麒麟獅子舞誕生とその周辺	■6月29日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 無料 ■講師: 野津龍(鳥取大学名誉教授)
	《アートシアター》 マーク・カゲル監督作品「バルテウス」(VHS)	■7月5日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生〜一般 / 250名 / 無料
	《歴史講座》 弓矢をつくろう!	■7月6日(日) 10:00~15:00 / 会議室・前庭 ■小学校4~6年生とその保護者 / 20名 / 100円 ※申込受付: 6月9日(月)~6月26日(木)(往復はがき、Eメール、抽選)
	2014 7 JUL.	《ギャラリートーク》 コレクション展II
夏休み子ども向け展示関連《ワークショップ》 「きちえもんさんにちょうせん!」		■7月19日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生〜一般 / 20名 / 無料 ※申込受付: 7月4日(金)〜、電話のみ
《スペシャルワークショップ》 「美術作家 瀧澤潔さんとつくりよう!」(仮)		■7月26日(土) / 展示室 ■小学生〜一般 / 未定 / 要観覧料
《自然講座》 自作天体望遠鏡で星を見よう!		■7月26日(土) 観望準備日: 7月27日(日) 14:00~16:00 / 会議室・前庭 ■小学生〜一般 / 20名 / 無料 ※申込受付: 7月3日(木)〜、電話のみ
《野外観察会》 トンボをとろう! in 出会いの森		■7月27日(日) 10:00~12:00 / ひとり出合いの森(鳥取市桂見) ■幼児・小・中学生 / 30名 / 無料 ※申込受付: 7月10日(木)〜、電話のみ
《歴史講座》 貝の腕輪をつくろう!		■7月27日(日) 13:30~15:30 / 会議室 ■小学校4~6年生とその保護者 / 20名 / 無料 ※申込受付: 6月30日(月)~7月17日(木)(往復はがき、Eメール、抽選)
《スペシャルアートシアター》スパイク・ジョーンズ監督作品 「かいじゅうたちのいるところ」(DVD)		■8月2日(土) 14:00~15:50 / 講堂 ■小学生〜一般 / 250名 / 無料
《野外観察会》 川原の石をしらべよう!		■8月3日(日) 10:00~15:00 / 鳥取市河原町東側の千代川川原(午前) / 鳥取中央公民館(午後) ■小・中学生 / 30名 / 無料 ※申込受付: 7月10日(木)〜、電話のみ
《歴史講座》夏休み自由研究相談室 「鳥取県の歴史・民俗を調べてみよう!」		■8月3日(日) 10:00~17:00 / 会議室 ■小・中学生 / 定員なし / 無料
自然・美術コラボ企画《ワークショップ》 ときめき☆サンゴ染めに挑戦!		■8月9日(日) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生〜一般 / 20名 / 450円 ※申込受付: 7月25日(金)〜、電話のみ
2014 8 AUG.	《特別講演会》 「しんかい6500」で見る深海の世界	■8月16日(土) 13:30~15:00 / 講堂 ■小学生〜一般 / 250名 / 無料
	夏休み子ども向け展示関連《ワークショップ》 「型染め版画に挑戦!」	■8月16日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生〜一般 / 20名 / 未定 ※申込受付: 8月1日(金)〜、電話のみ
	《自然講座》 夏休みの標本調べ相談室	■8月17日(日) 10:00~17:00 / 会議室 ■小・中学生・高校生 / 定員なし / 無料
	自然・美術コラボ企画《ワークショップ》 「みつけてドキドキ♡深海の生きもの」	■8月23日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生〜一般 / 20名 / 無料 ※申込受付: 8月8日(金)〜、電話のみ
	《歴史講座》 お金をつくろう!	■8月24日(日) 13:30~15:30 / 会議室 ■小学校4~6年生とその保護者 / 20名 / 100円 ※申込受付: 7月28日(金)~8月14日(木)(往復はがき、Eメール、抽選)
	《アートシアター》 「ピリペンさんの手づくり潜水艦」(DVD)	■8月30日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生〜一般 / 250名 / 不要
	《アートシアター》東京芸術大学大学院生による修了作品集 「GEIDAI ANIMATION④」(DVD)	■9月6日(土) 14:00~15:50 / 講堂 ■高校生〜一般 / 250名 / 無料
	《アートセミナー》 「現代美術と美術館(仮)」	■9月13日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生〜一般 / 40名 / 無料
	《講演会》 江戸時代の神社の棟札に何が書かれているか	■9月14日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 無料
	《スペシャルトークセッション》 「原田マハさんと語る」	■9月20日(土) 14:00~16:00 / 講堂 ■高校生〜一般 / 250名 / 無料
2014 9 SEP.	《講演会》 鳥取城と米子城の天守の復元について	■9月21日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一 般 / 230名 / 無料 ■講師: 金澤雄記(米子工業高等専門学校校助教)
	《天体観望会》 秋の星を見る会	■9月23日(火・祝) 18:30~20:30 / 前庭 ■小学生〜一般 / 定員なし / 無料
	《ワークショップ》 落書きばんざい!(秋編)	■9月27日(土) 10:00~15:00 / 博物館前庭 ■幼児・小学生 / 定員なし / 無料

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。
※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までご連絡ください。※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。

鳥取県立博物館ニュース No.17

平成26年(2014年)4月1日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

- 入館料: 常設展 / 一般 180(150)円
()内は20名様以内の団体料金
 - 開館時間: 9時~17時(入館は16:30まで)
4月~10月の企画展開催中の土、日は
19:00まで開館(入館は18:30まで)
 - 休館日: 毎週月曜日(祝日の場合が翌日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
年末年始(12月29日~1月3日)
- ※詳しくはホームページでご確認ください。



お客様の満足のためへ...

MORRIX

株式会社モリックスジャパン

TEL 0857-23-3641

本社 鳥取市南栄町203-6

倉吉店 倉吉市下田町870 中瀬ビル3F

<http://www.morrix.co.jp/>

引越しは日通

ひっこしは日通

0120-154022